

高耐候性フッ素樹脂塗料ラジカル制御タイプ
ボンフロン水性GT改装工法
BONNFLOON

BFC
— BONNFLOON —

ボンフロン株式会社 <https://www.bonnflon.co.jp/>

本社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-9 コンフォール安田ビル5F



ボンフロンはボンフロン(株)の登録商標です。 ルミフロンはAGC㈱の登録商標です。

TEL : 03-5217-5101 FAX : 03-5217-5106

BFC ボンフロン株式会社
— BONNFLOON —

建物が蘇る！！ ボンフロン水性GT オール水性改裝工法

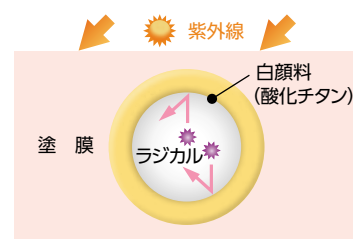
外壁の大敵は「紫外線」です。
塗替え時期を迎えた外壁は、この「紫外線」によって、ひび割れ、ピンホール（小さな穴）、汚れなどが発生しています。
定期的なメンテナンスを行うことは、建物の劣化防止につながります。
ボンフロン(株)の水性フッ素樹脂塗料は、原料にAGC(株)のフッ素樹脂「ルミフロン」を使用。
「ルミフロン」は橋梁・航空機など、幅広い分野で使用されるほど、耐久・耐候性に優れています。

特 長

長持ち

長寿命

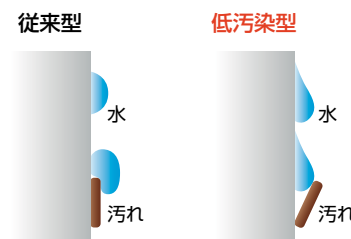
特に紫外線に強いラジカル制御機能が加わり、長期間にわたって塗膜を保護して光沢と色彩を保ちます。
紫外線などの影響によって発生し、樹脂の結合を破壊する白顔料内の酸化チタンの表面をコーティングすることで、ラジカル(劣化因子)の発生を制御、塗膜の劣化を抑制します。



キレイ

汚れがつきにくい

塗料が水になじみやすい性質(親水性)を持っているため、雨水が薄く広がって膜を作ります。
この雨水が塗膜と汚れの間に入り込み、外壁の汚れを浮かして、雨水と一緒に流れ落とします(セルフクリーニング機能)。



やさしい

人や環境にやさしい

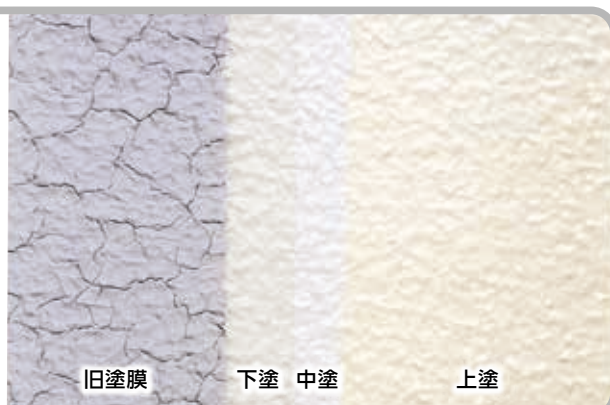
使用する塗料は、すべてホルムアルデヒド放散等級の最上位規格『F☆☆☆☆』に登録されている商品です。
これは、外壁塗料でありながら、屋内でも使用できる塗料という証明です。
水性塗料なので、臭気も少なく、人や環境にやさしい塗料です。



フッ素樹脂塗料仕上げのオール水性改裝工法

ヘアークラック に最適！

老朽化した壁面に耐久性を備えた下地塗膜をつくりあげ、リフレッシュします。

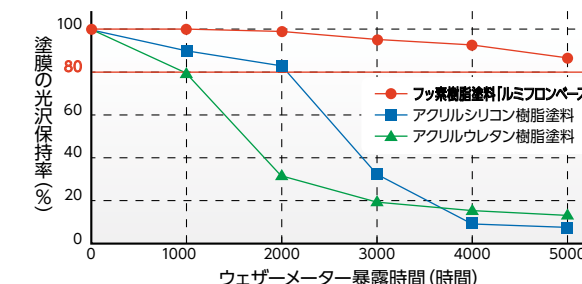


微弾性厚膜型塗膜を下塗に使用することで、ヘアークラックに追従します。

ボンフロン水性GTの耐候性

塗料(樹脂)の耐候性の違い

塗料に使われている「樹脂」によって、塗料の性能が変わってきます。
下表で縦軸は塗膜の光沢保持率、横軸は促進耐候性試験をかけた時間を表しています。
一般的に塗料の劣化は、艶が無くなるのと正比例し、光沢保持率が80%を下回ると塗膜が劣化し、基材の保護機能が低下します。
このタイミングが、塗替えの時期といわれています。

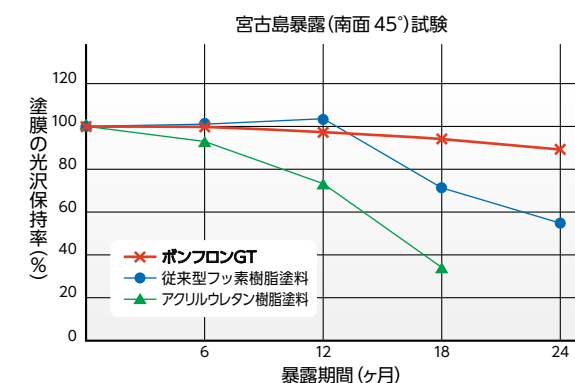


ボンフロンGTの性能

宮古島暴露試験

(南面45°におけるデータ)

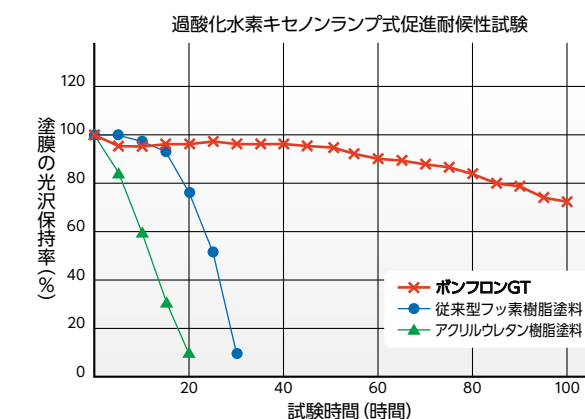
宮古島は、暴露環境としては非常に苛酷な場所です。アクリルウレタン樹脂塗料では暴露1年を過ぎると著しい光沢の低下が観測されます。この環境下で、「ボンフロンGT」は暴露2年を経過しても90%近い光沢を保持。「高温・多湿・高紫外線」の厳しい環境に最適な塗料であることを証明しています。



光触媒劣化促進耐候性試験

(過酸化水素水を使用したキセノンランプによる試験)

「ボンフロンGT」は、下記のデータの様に光触媒劣化促進耐候性試験においても従来型フッ素樹脂塗料と比較して格段の耐久性の向上が見られます。このことから、厳しい環境下においても優れた耐久性を発揮する事ができるといえます。



施工例



沖縄県立教育センター
「ボンフロンGT WR-100HBSR工法」



AGC(株)市原住宅
「ボンフロンGT WR-100SR工法」

長期耐久型水性フッ素ダブルコート工法

ボンフロンWR-100SR工法(既存塗膜あり)/GT-E113

工 程		使用材料	希 釈 率 (%)	標準所要量 (kg/m ²)	塗 回 数	塗装間隔(23℃)	施 工 方 法
下地調整と 清掃		■旧塗膜に脆弱部分のある場合は、サンダー・皮スキ・ケレン棒等を用いて除去し、 下地調整材を用いて段差修正及び模様合わせを行ってください。 ■高圧洗浄機を用いて、旧塗膜に付着している塵埃・汚れ等を水洗いしながら除去してください。					
1	下 塗	ボンHBサーフェーサーR	5～8	0.30～0.50	1	16h以上 7日以内	ウールローラー
			清水 2～5	0.80～1.20			砂骨ローラー
2	中 塗	ボンフロン水性GT(艶消)	清水 0～5	0.12～0.15	1	4h以上	刷毛・ローラー
				0.15～0.20			エアレス
3	上 塗	ボンフロン水性GT-SR	清水 0～5	0.09～0.11	1	—	刷毛・ローラー
				0.11～0.15			エアレス

備考：注1 塗装面が風化したコンクリートやリシン等脆弱な場合は、ボンカチオンプライマーを塗装してからボンHBサーフェーサーRを塗装して下さい。
ボンカチオンプライマー所要量：0.15～0.19kg/m² 塗装間隔(23℃)：2時間

工程短縮型工法(2工程)

ボンフロン防藻WR-100SCSR工法(既存塗膜あり)/GT-E125

工 程		使用材料	希 釈 率 (%)	標準所要量 (kg/m ²)	塗 回 数	塗装間隔(23℃)	施 工 方 法
下地調整と 清掃		■旧塗膜に脆弱部分のある場合は、サンダー・皮スキ・ケレン棒等を用いて除去し、 下地調整材を用いて段差修正及び模様合わせを行ってください。 ■高圧洗浄機を用いて、旧塗膜に付着している塵埃・汚れ等を水洗いしながら除去してください。					
1	下 塗	ボンHBサーフェーサーR(W)	清水 0～3	0.30～0.50	1	16h以上 7日以内	ウールローラー
				0.80～1.20			砂骨ローラー
2	上 塗	ボンフロン水性GT-SC低汚染防藻	既調合	0.16～0.20	1	—	刷毛・ローラー

備考：注1 塗装面が風化したコンクリートやリシン等脆弱な場合は、ボンカチオンプライマーを塗装してからボンHBサーフェーサーR(W)を塗装して下さい。
ボンカチオンプライマー所要量：0.15～0.19kg/m² 塗装間隔(23℃)：2時間
注2 ボンフロン水性GT-SC低汚染防藻の施工方法はローラー塗装のみで、たて・よこ十字塗りを一回塗りとし、規定の所要量を厳守して下さい。

水性フッ素改裝工法

ボンフロンWR-100HBSR工法(既存塗膜あり)/GT-E106

工 程		使用材料	希 釈 率 (%)	標準所要量 (kg/m ²)	塗回数	塗装間隔(23℃)	施 工 方 法
下地調整と 清掃		■旧塗膜に脆弱部分のある場合は、サンダー・皮スキ・ケレン棒等を用いて除去し、 下地調整材を用いて段差修正及び模様合わせを行ってください。 ■高圧洗浄機を用いて、旧塗膜に付着している塵埃・汚れ等を水洗いしながら除去してください。					
1	下 塗	ボンHBサーフェーサーR	5～8	0.30～0.50	1	16h以上 7日以内	ウールローラー
			清水 2～5	0.80～1.20			砂骨ローラー
2	中 塗	ボンフロン水性W # 1500中塗	清水 0～15	0.09～0.11	1	4h以上	刷毛・ローラー
				0.11～0.15			エアレス
3	上 塗	ボンフロン水性GT-SR	清水 0～5	0.09～0.11	1	—	刷毛・ローラー
				0.11～0.15			エアレス

備考：注1 塗装面が風化したコンクリートやリシン等脆弱な場合は、ボンカチオンプライマーを塗装してからボンHBサーフェーサーRを塗装して下さい。
ボンカチオンプライマー所要量：0.15～0.19kg/m² 塗装間隔(23℃)：2時間

既存フッ素樹脂塗料塗替え工法(ルミフロン系塗膜)

ボンフロンWR-100SR工法(既存ルミフロン系塗膜)/GT-E115

工 程		使用材料	希 釈 率 (%)	標準所要量 (kg/m ²)	塗 回 数	塗装間隔(23℃)	施 工 方 法
下地調整と 清掃		■旧塗膜に脆弱部分のある場合は、サンダー・皮スキ・ケレン棒等を用いて除去し、 下地調整材を用いて段差修正及び模様合わせを行ってください。 ■高圧洗浄機を用いて、旧塗膜に付着している塵埃・汚れ等を水洗いしながら除去してください。					
1	下 塗	ボンHBサーフェーサーR(W)	清水 0～3	0.30～0.50	1	16h以上 7日以内	ウールローラー
				0.80～1.20			砂骨ローラー
2	中 塗	ボンフロン水性GT(艶消)	清水 0～5	0.12～0.15	1	4h以上	刷毛・ローラー
				0.15～0.20			エアレス
3	上 塗	ボンフロン水性GT-SR	清水 0～5	0.09～0.11	1	—	刷毛・ローラー
				0.11～0.15			エアレス

備考：注1 塗装面が風化したコンクリートやリシン等脆弱な場合は、ボンカチオンプライマーを塗装してからボンHBサーフェーサーR(W)を塗装して下さい。
ボンカチオンプライマー所要量：0.15～0.19kg/m² 塗装間隔(23℃)：2時間

施工上の一般注意事項

- 1

塗装場所の気温が5℃以下、湿度85%以上の時、又換気が十分でなく結露が考えられる場合は塗装を避けて下さい。
- 2

外部の塗装で降雨、降雪の恐れのある場合及び強風時は塗装を避けて下さい。
- 3

塗料は内容物が均一になるように充分に攪拌して下さい。薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上り不良となりますのでご注意下さい。
- 4

刷毛塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、所要量、表面肌が異なり色相差が出ますので刷毛塗り部は希釈を少なくして塗装して下さい。
- 5

汚れ、傷などにより補修塗りが必要な場合は、使用塗料の控えを必ず取っておき、同一塗料、同一塗装方法で補修塗装をして下さい。

改修時の下地ごしらえ

- 1

塵埃等による汚れ、表面付着異物は高圧洗浄(水圧150kg/㎠以上)で清掃除去して下さい。固着物はワイヤーブラシ、ケレン棒、サンダーなどを併用して除去して下さい。
- 2

脆弱下地や劣化旧塗膜はワイヤーブラシ、ケレン棒、サンダーなどで除去し、弾性モルタル、ポリマーセメントモルタルで段差修正し、表面は、ローラー、へら、刷毛などを用いて周囲と模様合わせをして下さい。
- 3

下地の欠損、ひび割れ、凹凸など不具合部は、事前にポリマーセメント、エポキシ注入材、シーリング材などで補修して下さい。

材料荷姿

	材 料 名	入 目	
下 塗	ボンカチオンプライマー	15kg/缶	—
	ボンHBサーフェーサーR	16kg/缶	—
	ボンHBサーフェーサーR(W)	16kg/缶	—
中 塗	ボンフロン水性W#1500中塗	15kg/缶	4kg/缶
	ボンフロン水性GT(艶消)	15kg/缶	4kg/缶
上 塗	ボンフロン水性GT-SR	15kg/缶	4kg/缶
	ボンフロン水性GT-SC低汚染防藻	13kg/缶	3.5kg/缶

※ 上記商品はすべてF☆☆☆☆登録済みです。